戦時科学技術動員下の東北帝国大学
―大久保準三文書を手掛かりとして―

吉　葉　恭　行

１．はじめに

科学技術ノ動員ニ関スル総合的根本方策ノ一環トシテ大学其ノ他科学研究機関ニ於ケル科学ニ関スル学理研究力ヲ戦争ノ現段階ニ於テ最高度ニ集中発揮セシメ科学ノ飛躍的向上ヲ図リ戦力ノ急速増強ニ資スル為之ガ体制ヲ速カニ整備ス

これは 1943（昭和 18）年 8 月 20 日に閣議決定された「科学研究ノ緊急整備方策要綱」(1)の「第一　方針」の全文である。1937（昭和 12）年の日中戦争勃発前後より、日本は軍事技術開発のための科学技術動員の重要性について認識はしてはいたものの、その体制整備の進捗は比較的緩やかなものであった(2)。しかし上述の閣議決定がひとつの契機となり科学技術動員が本格化してゆき、大学の研究者達もなんらかの形で動員されていたことは知られているところである(3)。たとえば、陸軍・海軍の所管する各研究所の委託研究などもその一つである。全国的な科学技術動員組織でいえば、技術院が主導した研究隣組や文部省所管の学術研究会議の研究班などがその代表的なものである。

近年、戦時下日本における全国的な科学技術動員組織の形成過程に関する研究は進展しつつある(4)。しかしながら、各帝国大学の研究者たちが、それらの科学技術動員組織にどのように関与し、結果として個別の帝国大学にいかなる研究体制が形成され、どのような研究が展開されていったのかという研究はみられない。

東北大学史料館所蔵の大久保準三文書(5)に「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」が所収されている。調査したところ、この「調書」は、学術研究会議が 1943（昭和 18）年 12 月に組織した科学動員組織である研究班の班員に交付された科学研究費に関わるものであることが明らかになった。そこで本稿では、この大久保準三文書を手掛かりとして、学術研究会議研究班と科学研究費という枠組みにおいて、東北帝国大学ではいかなる研究が展開されていたのか、その一端を明らかにしたい。

なお、本文中、引用する資料の原文は縦書きであるが、引用の際には横書きにし、適宜、改行等を施している。また旧漢字は新漢字に改め新漢字にないものはそのまま表記し、仮名づかいは原文のままとした。欠損や判読不明な箇所は□□で示した。〔　〕は筆者による注記である。

２　学術研究会議研究班の設置

1943（昭和 18）年 8 月 20 日に閣議決定された「科学研究ノ緊急整備方策要綱」により、学術研究会議を中心とする科学動員組織の構築が示された(6)。8 月 25、26 日に開催された帝国大学総長会議において、政府・文部省の方針が大学側に伝えられ、文部省は各大学に科学動員への対応組織としての委員会設置を求めた(7)。この際に、大阪帝国大学が既に 5 月末に、「戦時科学報国会」を結成し、「学内ノ兵器研究者及ビ基礎科学研究者、更ノ技術担当者ノ協力一

致体制ヲ整備シ、現ニ着々ソノ効果ヲアゲツツアル」ことが報告されている[8]。この総長会議の後、各大学は委員会設置に着手することになる。

北海道帝国大学では、8 月 31 日に臨時評議会が開催され、「本学ニ於テモ有時即応ノ態勢ヲ整フル為メ学部長、研究所長ヲ委員トスル科学研究特別委員会ヲ組織スルコトニ決定」している[9]。

京都帝国大学では、9 月 2 日に評議会が開催され、「緊急科学研究体制ニ関スル件」が議題となり、羽田亨総長より「予てより計画中」の「京都帝国大学緊急科学研究体制」が報告され、協力が求められた[10]。

九州帝国大学では、9 月 3 日開催の評議会において、荒川文六総長より総長会議報告がなされ、「科学研究動員ニ関スル委員会」の設置が決定されたが、まずは各学部の意見を取りまとめることとなった[11]。そして 9 月 21 日の評議会であらためて「九州帝国大学科学研究動員委員会」設置の説明がなされている[12]。

名古屋帝国大学では、9 月 6 日開催の評議会で「科学研究ノ緊急整備方策ニ関スル件」が議題となり、「戦時科学研究会設置ノ提案アリ之ガ構成並ニ要項ニツキ種々協議ノ結果原案一部修正ノ上実施ト決定」している[13]。

東京帝国大学では、9 月 21 日の評議会で、9 月 1 日施行の「科学研究動員委員会規定」が示され「了解ヲ求メラ」れている[14]。

この様に各帝国大学で委員会設置の動きが見られるなか、東北帝国大学では、9 月 2 日開催の評議会で、熊谷岱蔵総長より「総長会議ノ件」が報告されている[15]。なかでも「科学研究ノ緊急整備方策要綱」の説明に重点がおかれ、「大学側デモ之ニ対応スル科学動員ノ委員会ヲ作ツテ貰ヒタイ」との文部省からの要望が説明された[16]。そして「東北帝国大学科学研究協議会規定（案）」と次の様な「東北帝国大学科学研究協議会規定案趣旨」が示された（資料１）。

【資料１】　東北帝国大学科学研究協議会規程案趣旨[17]

東北帝国大学科学研究協議会規程案趣旨
大東亜戦争ノ進展ニ伴ヒ今般政府ノ樹立シタ科学研究ノ緊急整備方策ニ
即応シ、本学ニ於テハ別案ノ如キ科学研究協議会ヲ設置シテ国家ノ要望
ニ副ハントスルノデアル。
本協議会ハ戦争遂行ノタメ現下最モ緊急ヲ要スベキ各般科学ノ研究題目
ヲ審議シ、本学ニ於テ自発的、総合的ニナスベキ緊急ニ就キ又ハ他ヨリ
委嘱ヲ受ケタル研究ニシテ数学部数学科或ハ数研究所ニ渉ツテ共同研究
スルニ依リ最モ有効ナル成果ヲ挙ゲ得ル如キ研究ニ就テハ当該専門家ヲ
指名シ研究委員会ヲ組織モシ(ママ)メソノ研究ノ完成ヲ期セントスルノデアル。
尚本協議会ハ学術研究会議其ノ他ノ研究機関トノ連絡ニ当ルモノトスル。

この趣旨にある通り、東北帝国大学科学研究協議会は、「科学研究ノ緊急整備方策ニ即応」するために、「戦争遂行ノタメ現下最モ緊急ヲ要スベキ各般科学ノ研究題目ヲ審議」し、学内外横断的な共同研究体制を組織し、「自発的、総合的」に研究を促進することを目的としてい

る[18]。この規程案はその場で承認され即日施行されることとなった[19]。この様に大学側の「自発的、総合的」共同研究の準備が進められていったのである。

一方、文部省の学術研究会議は1943（昭和18）年11月26日公布・施行の「学術研究会議官制改正」（勅令第886号）により、会員数倍増や会長権限強化等がなされるとともに、文部大臣の権限で「科学研究動員」に関する重要事項を審議させるために学術研究会議に科学研究動員委員会を設置できるようになった[20]。これにより学術研究会議は実質的に文部省の「科学技術動員」のための機関となった[21]。官制改正に伴い、会則も改正され、同日、「学術研究会議科学研究動員委員会規程」も制定された[22]。

この「科学研究動員委員会規程」により、委員会は、「戦時下ニ於ケル学理研究ニ関スル重要課題ノ選定並ニ其ノ研究担当機関及研究担当者ノ選定」、「研究協力組織ノ企画」、「研究費、研究用資材」、「研究成果ノ活用」、「其ノ他科学研究動員上必要ナル事項」について審議することが定められた[23]。

12月6日に第1回目の科学研究動員委員会が開催され、自然科学分野104項目の重要研究課題とその研究班が決定された[24]。同年12月7日付『朝日新聞』東京版には「科学研究に協力組織／重要題目百四項を決定」が報じられている[25]。ここでは「常任委員会では今月下旬更に本年度分の研究題目並に研究組織を追加する」ことも報じられている。

12月17日、文部省科学局から東北帝国大学に「科学研究動員下ニ於ケル重要研究ニ関スル件」が通牒された（資料２）。この通牒の本文中に「重要研究課題（第一次決定ノ分）」と記されているので、第1回科学研究動員委員会の決定内容を反映したものであると思われる。

【資料２】　科学研究動員下ニ於ケル重要研究ニ関スル件[26]

発科七四号
　昭和十八年十二月十七日
　　文部省科学局長　印
東北帝国大学総長　殿

科学研究動員下ニ於ケル重要研究ニ関スル件
我ガ国科学ニ関スル学理研究力ヲ大東亜戦争ノ遂行ヲ唯一絶対ノ目標ノ下ニ最高度ニ集中発揮セシメ科学ノ飛躍的向上ヲ図リ戦力ノ急速増強ニ資スル為ノ重要研究課題（第一次決定ノ分）中昭和十八年度緊急科学研究費ヲ以テ貴学（校、所、会）ニ於テ研究スベキ研究事項、研究担当者及之ニ配当セル研究費別紙ノ通リ決定相成タルニ付別紙要項御了知ノ上貴学（校、所、会）ノ研究力ヲ綜合発揮シテ急速ニ其ノ成果ヲ挙ゲ以テ刻下ノ要請スル戦力増強ニ資スル様御配意相成度此段依命通牒ス
追而研究費ハ貴官宛支払委任相成可シ
〔改ページ〕
要項
　一、本研究ハ科学研究動員下ニ於ケル緊急遂行ヲ要スル重要研究課題ト

シテ貴学ニ於テ別紙ノ通リ担当スルコトニ決定シタルモノナリ

二、本研究実施ニ当リテハ貴学ノ全研究力ヲ綜合発揮シテ成果ノ急速発揚ニ努メ戦力増強ニ資スルモノトス

三、全国的共同研究課題ニ在リテハ研究班長ヲ中心トシテ各担当者間ノ連絡ヲ密ニシ研究協力ノ実ヲ挙グル様努ムベキモノトス

四、全国的共同研究担当者ハ別紙ノ通リナルモ貴学内ニ於ケル協力組織編成ト右以外ニ担当者ヲ加ヘ又ハ変更スルノ必要アル場合ハ当該研究班長ト協議スルモノトス

五、本題目ニ対スル貴学内ノ研究組織ハ別紙様式（一）ニ依リ十二月末日迄ニ文部省ニ報告スルコト其ノ変更アリタル場合ハ其ノ都度報告スルコト

六、研究機関長又ハ研究動員委員会ハ常ニ研究者ト密接ナル連絡ヲ保チ研究途中ノ着想又ハ一部ノ成果ニシテ戦力増強上価値アリト認メラルルモノハ学術研究会議内科学研究動員委員会常任委員ト連絡シ又ハ直接軍其ノ他ノ関係方面ト連絡シテ極力之カ実用化ヲ図ルコト右ノ場合其ノ概要ヲ文部省ニ報告スルコト

七、研究終了シタルトキ又ハ一部ノ成果ヲ得タルトキハ速ニ其ノ業績ヲ纏メ別紙様式（二）ニ依リ科学研究報告書又ハ科学研究中間報告書トシテ文部省ニ提出スルコト全国的共同研究課題ノ場合ハ其ノ研究班長トモ連絡スルコト

八、研究担当者退職其ノ他ノ事由ニ依リ研究ノ継続不可能トナリタルトキハ直チニ其ノ理由ヲ詳具シ文部省ノ指揮ヲ承クルコト全国的共同研究担当者ナル場合ハ其ノ班長トモ連絡スルコト

九、研究事項ノ発表ハ秘密事項ノ外文部省ノ許可ヲ要セザルモ其ノ際ハ文部省科学研究費ニ依ル研究ナルコトヲ明ニスルコト又之ヲ刊行シタルトキハ別冊二部ヲ文部省科学局研究動員課宛送付スルコト

一〇、研究事項ニ関シ特許権等ノ問題ヲ生ジタルトキハ予メ文部省ニ協議スルコト

一一、研究従事者ハ其ノ研究ニ関シ知得シタル秘密ヲ厳守スルハ勿論研究報告等ニ関シテモ防諜上遺憾ナキヲ期スルコト

〇一二、研究費ハ直接当該研究ニ不可欠ノ経費ニノミ使用スルコト

〇一三、当該研究機関経費支弁ノ助手副手其他研究補助者ニシテ研究担当者ノ下ニ専心其ノ研究業務ニ従事スル者ニ対シ特ニ必要アル場合当該題目配当研究費ヨリ戦時研究特別手当ヲ支給スルハ差支ナキモ此ノ種経費ハ極力少額ニ止ムルコト

〇一四、当該研究遂行上特ニ必要アル場合新ニ研究補助員ヲ採用スルハ差支ナキモ其ノ手当ハ技術ノ優劣職務ノ繁閑等ニ依リ月額百圓ヲ限度トスルコト

○一五、研究主要員ヲ傭入レル必要アル場合及前二項ニ依リ難キ特別ノ事情アル場合ハ詳細事由ヲ具シ文部省ニ協議スルコト
○一六、研究費ハ翌年度ニ亘リ繰越使用セザルコト
一七、研究機関内ニ配当セラレタル各項目研究費間ノ流用ハ支出官ニ於テ実施シ文部大臣ニ報告スルコト但シ全国的共同研究題目ニ在リテハ当該研究班長ノ承認ヲ要スルモノトス全国的共同研究小題目間ノ配当予算ノ増減ニシテ支払予算額ヲ増減スルノ必要アル場合ハ当該研究班長ハ関係支出官ト連絡ノ上理由ヲ具シ文部大臣ニ申請スルモノトス
一八、科学研究費ニ対スル会計報告書ヲ別紙様式（三）ニ依リ翌年五月十日迄ニ文部省ニ提出ルコト
十九、爾今報告照会等ノ場合ノ研究大題目ハ頭書ノ番号ヲ以テスウコト
○二〇、本研究費ハ緊急科学研究費ナルニ依リ従前ノ科学研究費ト区別シテ決算スルコト
備考
七号ニ依ル様式ハ追テ通牒ス
○一三号ニ関シテノ実施要項ハ追テ指示ス

〔項目番号前の○と○傍点、および一重傍線は原文中では朱字による〕

12 月 17 日に通牒されたこの第 1 次決定分は、学術研究会議に科学研究動員委員会が設置された 11 月 26 日から 1 か月足らずの内に決定されたためか、「要項」七の研究成果報告のための様式（別紙様式（二））や一三の助手副手其他研究補助者に対する「戦時研究特別手当」の実施要項などが未整備で後刻通牒・指示することになっている。また五において「学内ノ研究組織」を「別紙様式（一）」により 12 月末日迄に文部省に報告することになっていたが、東北帝国大学がこの学内研究組織を報告したと思われる資料は見当たらなかった。

表 1　昭和 18 年度緊急科学研究決定件数

部局	第 1 次	第 2 次	追加	計
理学部	13	7		20
医学部	4	4		8
工学部	6	5		11
金属材料研究所	3	6		9
農学研究所	3	3		6
抗酸菌病研究所	1			1
航空医学研究所	1	1		2
非水溶液化学研究所	1			1
選鉱製錬研究所		2		2
科学計測研究所		1		1
高速力学研究所		1		1
電気通信研究所			1	1
計	32	30	1	63

注 1）略称で記載されていた部局名は正式名称に直した。
出所）『科学研究手当関係書類』（東北大学史料館所蔵）より作成。

第2次決定がいつなされたのかは明らかでないが、1943（昭和18）年12月23日開催の名古屋帝国大学評議会で第2次決定分の報告がなされていることから、12月7日付『朝日新聞』が12月下旬に決定すると報じた「追加」の分が第2次決定分であると思われる[27]。

表2　昭和18年度緊急科学研究費に決定した重要研究題目（第1次決定分）

番号	大題目（班名）	小題目	担当者	分担者	金額[円]	備考
理学部						
1	大口径比望遠光器	分光学的研究	教授　高橋胖		－	※関口鯉吉
2	太陽輻射、放射線及其作用	電離層ノ理論的研究	教授　松隈健彦	助教授一柳壽一	500	※萩原雄祐
3	天測航法及天文測地法ノ改良	潜水天測法	教授　松隈健彦		500	※教授　松隈健彦
6	統計数学	統計原理	助教授　淡中忠郎	研究嘱託川井三郎	1,000	※北川敏男
7	応用解析	応用微分方程式（応用数学解析）	教授　岡田良知	名誉教授藤原松三郎	700	※圓正造
		応用代数(空中線)	泉信一		100	
8	応用幾何	歯車及工作機械ノ幾何学的研究	教授　窪田忠彦	助教授前田和彦、講師（仙台高工教授）佐々木重夫	1,150	※教授　窪田忠彦
		測量及照準	講師（仙台高工教授）佐々木重夫		250	
22	特殊計測器		教授　泉信一		1,000	※清水辰次郎
47	地雷探知機		教授　中村左衛門太郎	助教授加藤愛雄	－	※高橋龍太郎
48	物理探査法（現用方法ノ研究機械ノ改良及新作鉱物岩石ノ物理性）		教授　中村左衛門太郎	助教授加藤愛雄	3,000	※松山基範
50	工業材料ノ鉱物学的及岩石学的研究		教授　高根勝利	大学院特別研究生木崎善雄	7,000	※坪井誠太郎
51	鉱床	鉱床ノ富鉱体	教授　渡邊萬次郎		6,000	※加藤武夫
53	石油鉱床	石油鉱床ノ研究	教授　高橋純一	大学院特別研究生増井淳一	4,000	※上床國夫
54	南方油田地質ノ基礎的研究	有孔虫	教授　半澤正四郎	助教授浅野清	4,000	※教授　半澤正四郎
医学部						
87	熱帯及寒地栄養	寒地栄養	教授　黒川利雄	助教授山形敞一、副手笹生直也、〃瓢武二郎、〃清野季彦	3,000	※戸田正三
92	放射線	間接撮影法	教授　古賀良彦	講師高橋信次	9,600	※中泉正徳
93	結核	肺結核外科的療法	教授　武藤完雄	助教授槙哲夫、講師会田□太郎、〃鈴木千賀志、〃宍戸仙太郎、助手阿部正明、〃今官三助、副手本多憲児、〃大友毅男	3,000	※今村荒男
3006	脳波		教授　本川弘一		3,000	
工学部						
11	高速度空気力学研究		教授　宮城音五郎	教授沼知福三郎	4,000	※守屋昌次郎
27	化学兵器及爆発物		教授　原龍三郎	助教授菊池三郎	5,000	※牧□夫
30	耐熱寒電池		教授　伏屋義一郎	助教授大内謙一、大学院特別研究生高木修	5,000	※亀山直人
43	爆圧及ソノ破壊		教授　宮城音五郎	講師宮城五一郎	3,000	※武藤清
57	軽金属材料		教授　伏屋義一郎	助教授大内謙一、助手安積利一	8,000	※亀山直人
			教授　原龍三郎	助教授菊地三郎、同　鳥海達郎	4,000	
金属材料研究所						
56	腐蝕防止		教授　村上武次郎	助教授氏家丈三郎	3,000	※氏家長明　学振第五十五小委員会ト協同
			教授　遠藤彦造		1,000	
			教授　大日方一司		1,000	
57	軽金属材料		教授　青山新一	助教授袋井忠夫	5,000	※亀山直人
58	稀有元素		教授　青山新一		7,000	※木村健二郎
農学研究所						
65	木造造船及海中建造物ノ蝕害		教授　今井丈夫	講師　仙台高工教授　三井生喜雄	7,000	※雨宮育作
77	水田裏作		教授　寺尾博	教授木村治郎、助教授山本健吾、同　青峰重範、講師手島周太郎	5,000	※寺尾博
79	淡水魚ノ稚魚飼育		教授　今井丈夫	助教授西岡丑三、講師永野為武、講師手島周太郎	5,000	※雨宮育作
抗酸菌病研究所						
98	結核	結核予防	総長　熊谷岱蔵、教授　海老名敏明	助教授岡捨己、講師片倉孝、助手河西助蔵、〃渋谷正三、〃菅野厳、〃粟野亥佐武、〃安本利俊、副手柳橋満雄、〃伊藤勤	10,000	※今村荒男
		結核ノ化学的療法	総長　熊谷岱蔵、教授　海老名敏明	教授野村博、〃藤瀬新一郎、助教授岡捨己、助手遠藤英夫、〃高橋弥三郎、大学院学生佐藤正二郎、副手齋藤悌三、〃佐藤政弘、助手大友孝蔵、〃今野芳雄	3,500	
航空医学研究所						
83	航空医学	綜合研究	教授　加藤豊治郎、〃佐武安太郎（疲労）、〃那須省三郎、〃林雄造、〃伊藤実、〃立木豊、〃桂重次、〃本川弘一（脳波）教授（航空）佐藤□、教授（医）松田幸次郎	助教授和田正男、助教授中澤房吉	48,000	※加藤豊治郎
非水溶液化学研究所						
56	腐蝕防止		教授　原龍三郎	助教授菊池三郎	4,000	※氏家長明　学振第五十五小委員会ト協同

注1）備考欄の※印は大題目の研究班長を示す。
注2）判読不明な箇所は□で示した。
出所）『科学研究手当関係書類』（東北大学史料館所蔵）より作成。

通牒の「重要研究課題（第一次決定ノ分）」の東北帝国大学の分が32の研究課題である。その後、第2次決定分として30の研究課題が、追加で1研究課題がそれぞれ採択されている。この追加の分は、1944（昭和19）年4月6日開催の京都帝国大学評議会で決定が報告されているので、これ以後に追加決定されたものと考えられる[28]。

表3　昭和18年度緊急科学研究費に決定した重要研究題目（第2次決定分）

番号	大題目（班名）	小題目	担当	分担者	金額[円]	備考
理学部						
48	物理探査法	重力計	助教授　加藤愛雄		7,500	※松山基範
66	塗料染料	船底塗料ノ生物学的研究	29.786 mm		3,000	※三浦伊八郎
105	光学器械及光学材料		教授　林威		3,000	※木内政蔵
113	地球電気及磁気	空気中電気ノ天気予報ヘノ利用	助教授　加藤愛雄		3,350	※長谷川万吉
114	飛行機凍結防止	飛行機凍結防止ニ関スル研究	助教授　加藤愛雄	助教授樋口泉、講師佐藤隆夫	30,000	※中谷宇吉郎
4028	馬鈴薯、甘藷ノ病害貯蔵		教授　吉井義次、山口弥輔、岡田要三助	教授元村勲、助教授神保忠男、〃小野直三□、講師吉岡邦二、〃森□也	10,000	
4029	医学ニ関スル昆虫ノ研究		教授　朴澤三二	講師加藤陸奥雄、学生榊原□吉、副手益子□未也、〃鳥海志	2,000	
医学部						
93	結核	ＢＣＧ接種ノ組織学的研究	教授　山崎正文	講師沖津貞夫、助手杉田憲太郎、副手金城時汰	2,000	※今村荒男
98	免疫	免疫性動脈内被細胞毒素ノ研究	教授　村上次男	講師酒井清澄、副手玉井芳幸	4,000	
115	疲労		教授　佐武安太郎	副手高橋謹吾、大学院特別研究生鈴木達二	2,500	※勝沼精蔵□
3029	麻疹チフス其他リケツチア病		教授　黒屋政彦	宮城県防疫官青木大輔、助手浜上正、〃小関志郎、副手近藤□□治、〃岡部兵□	9,000	
工学部						
101	鋳物ノ研究		教授（選研）小出登雄吉		4,000	※石川登喜治
2041	無雑（騒）音歯車ノ研究		教授　成瀬政男	講師岩名義丈、〃山田□雄	15,000	
3043	航空発動機用熱力学機関ノ作製		教授　前川道治郎		800	
2043	高速光挺子指圧計		助教授　坪内為雄		500	
2040	磁歪材料ノ研究		教授　抜山平一	教授松平正寿、〃永井健三、〃仁科存、〃実吉純一、〃福島弘毅	40,000	
金属材料研究所						
1015	電波兵器用稀有ガス		教授　青山新一	教授神田英蔵、助教授袋井忠夫	5,000	
2045	高純鐵ノ製造及性質		教授　岩瀬慶三	助教授竹内栄、〃本間正雄	5,000	
2046	ヂユラミンノ性能向上		教授　大日方一司		3,000	
2047	無ニツケル耐熱鋼		教授　村上武次郎	助教授今井勇之進	3,000	
2048	低合金強力鋼		教授　村上武次郎		3,000	
2049	防蝕剤ノ改良		教授　遠藤彦造		1,500	
農学研究所						
4030	飛行場滑走路ノ植被		助教授　吉田重治		2,500	
4031	沿岸性水族ノ増殖		助教授　西岡丑三		2,000	
4032	東北地方代用食料ノ増産利用		教授　寺尾博	教授岡田要之助、講師手島周太郎	8,000	
選鉱製錬研究所						
2050	砂鉄ニヨル特殊鋼製造法		教授　濱住松二郎	教授的場幸雄、〃岡好良、助教授三本木貢治	20,000	
2051	航空機用鋳鉄ノ製造		教授　濱住松二郎	教授佐藤智雄、〃岡好良、助教授小出登雄吉	10,000	
科学計測研究所						
2052	機械的方法ニヨル鉄粉並焼結体		教授　大久保準三	教授岡村俊彦	7,000	
高速力学研究所						
2039	推進器具型ノキャビテーション性能		教授　沼知福三郎	助教授淵澤定敏	10,000	
航空医学研究所						
115	疲労		教授　加藤豊治郎		2,000	※勝沼精蔵
電気通信研究所						
35	超音波ニ依ル潜水艦対策		教授　実吉純一	教授福島弘毅	7,000	※雄山平三郎

注1）備考欄の※印は大題目の研究班長を示す。
注2）判読不明な箇所は□で示した。
出所）『科学研究手当関係書類』（東北大学史料館所蔵）より作成。

表2と表3に緊急科学研究費第1次決定分・第2次決定分の研究題目のリストを掲げた。先述の様に、資料2の「要項」の五で指示されている「学内ノ研究組織」を報告するための「別紙様式（一）」は見当たらなかったが、四に記されている「全国的共同研究担当者」を示す「別紙」の写しをもとに「別紙様式（一）」作成のために下書きされたもの、あるいは作成された「別紙様式（一）」から写しとったものと思われる資料が存在した。表2と表3は、この資料を元

に作成したものである。

表１とともに詳細を見てゆくと、理学部の研究題目が意外に多いことがわかる。資源開発にかかわる研究も目につくが、とりわけ第１次決定分では統計数学や応用解析、応用幾何などの応用数学分野が４件もある。

また表２の緊急科学研究費第１次決定分では、理学部の 50 番と 53 番、抗酸菌病研究所の 98 番において、大学院特別研究生が研究分担者として記載されていることが見て取れる。医学部の 93 番では、昭和 19 年度の大学院特別研究生に採用されることになる本多憲児（副手）の名前がみられる。書類上のことではあるが、大学院特別研究生が科学研究費の研究分担者として認められていたのである。また表３の第２次決定分でも、医学部の 115 番の研究分担者欄に大学院特別研究生が記載されていることが看取される[29]。

３．「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」

表４に昭和 19 年度分の東北帝国大学の各部局の科学研究費の要求件数と「要求額」を取りまとめた「科学研究費各部局要求学調」を掲げた。この「要求額調」は文書の綴られ方から、昭和 19 年２月 25 日から３月 15 日の間に作成されたものと判断される。また理学部 54 件、医学部 17 件、工学部 25 件という要求件数が一致することから、大久保準三文書に所収されている「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」がこの「要求額調」作成の

表４　昭和 19 年度科学研究費各部局要求額調

部局	件数	所要総額〔円〕	研究費要求額〔円〕
理学部	54	545,060	536,360
医学部	17	352,050	361,050
工学部	25	933,400	901,400
法文学部	13	90,100	未定
金属材料研究所	36	1,117,000	1,085,500
電気通信研究所	3	145,000	145,000
農学研究所	17	203,500	188,500
選鉱製錬研究所	3	460,000	460,000
抗酸菌病研究所	3	218,000	218,000
科学計測研究所	14	152,020	151,020
高速力学研究所	2	1,118,000	86,000
航空医学研究所	1	210,000	210,000
非水溶液化学研究所	8	31,000	17,000
計	196	5,575,130	4,357,850

注１）略称で記載されていた部局名は正式名称に直した。
注２）研究費要求額の合計が合わないがそのまま記載した。
出所）『科学研究手当関係書類』（東北大学史料館所蔵）より作成。

際に用いられたものと考えられる。

表５（本文末掲載）に大久保準三文書所収の「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」から作成したリストを掲げた。残念ながら、大久保準三文書所収の「調書」は理学部、医学部、工学部のものしかない。しかし、これらの調書から様々な事項を看取することが可能であろう。

まず昭和 18 年度に重要研究課題として緊急科学研究費が交付された題目（表２、表３）のほとんどが包含される形で、より多くの研究題目が科学研究費を要求していることが看取できる。

昭和18年度の第1次決定分、第2次決定分、追加決定分を合わせた合計63件に対して、昭和19年度分として要求された件数は約3倍の196件に及ぶ。金額ベースでは、昭和18年度緊急科学研究費894,950円に対して、昭和19年度要求総額は約5倍の4,357,850円であった。

個別の研究では、加藤愛雄理学部助教授が第114班で継続で担当する「飛行機凍結防止ニ関スル研究」が、2か年計画で要求している研究費125,000円が目立っている。医学部では、黒川利雄教授が担当者として新規要求している「寒地医学ニ関スル総合的研究」が156,200円と高額である。工学部では、抜山平一教授が担当者として各個研究第2040番で前年度に続いて3か年計画で要求している「磁歪材料ノ研究」と、小野健二教授が新規要求している「航空機用軽合金」が200,000円ともっとも高額である。

また研究分担者欄に、助手や副手とともに、大学院特別研究生が記載されているのが看取される。紙幅の都合で詳述できないが、医学部で2件、工学部で3件、大学院特別研究生が研究分担者として記載があった[(30)]。

第7研究班の「応用代数（空中線）」では泉信一理学部教授が研究担当者となっているが、肩書きに兼多摩研究所嘱託と付け加えられている。そしてこの研究には当時理学部数学教室の学生であり、翌昭和20年度の大学院特別研究生となる土倉保東北大学名誉教授が学徒勤労動員という形で研究に従事していたことが明らかになっている[(31)]。また理学部生物教室の吉井義次教授が担当する各個研究第4028番の「馬鈴薯、甘藷ノ病害貯蔵」は、昭和20年度の大学院特別研究生となる飯泉茂東北大学名誉教授が学徒勤労動員という形で従事した研究である[(32)]。

新規課題として要求している「水中聴音機」では、研究担当者が「東北帝国大学教授兼電気試験所嘱託」の泉信一であるが、「研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者氏名」として「多摩陸軍技術研究所東北帝国大学分室抜山教授」が記されている。そのほかにも理学部と工学部の共同研究では「線ニ沿ウ電磁波ノ研究」、医学部と理学部のそれでは「温泉科学ニ関スル綜合研究」などがみられた。実際にいかなる研究が展開され、それらの研究がどの程度の水準に達していたのか、評価し得る資料はないが、実際はともかく、研究費を要求することにより学内におけ

表6　科学研究動員下重要研究課題研究担当者数（実数）調　　（昭和19年8月28日）

学部又ハ研究所	研究課題件数			研究担当者数						備考
	全国的班組織	各個研究	計	教授	助教授	講師（嘱託）	助手	其他	計	
理学部	45	3	48	28	20	12	21	13	94	（学部ヨリ九）「全国的班長「五」」
医学部	14	3	17	16	6	5	3	11	41	
工学部	11	12	23	22	5	5	7	6	45	（学部ヨリ一〇）「全国的班長「一」」
法文学部	16	－	16	17	1	2	－	2	22	
電気通信研究所	2	1	3	2	3	－	－	－	5	
金属材料研究所	29	7	36	12	12	1	5	－	30	嘱託二ヲ教授欄ニ計上ス　全国的班長「五」
農学研究所	7	8	15	5	4	3	3	3	18	
選鉱製錬研究所	2	1	3	4	2	－	－	－	6	全国的班長「一」
抗酸菌病研究所	2	1	3	2	3	6	3	5	19	（□外ヨリ五）
科学計測研究所	1	6	7	2	4	1	4	2	13	
航空医学研究所	1	－	1	2	－	－	－	－	2	嘱託一ヲ教授欄ニ計セス　全国的班長「一」
高速力学研究所	1	1	2	－	－	－	－	－	－	兼任者ノミ担当ス
非水溶液化学研究所	2	1	3	2	1	－	－	3	6	
計	133	44	177	114	61	35	46	45	301	

備考
一、同一人ニシテ二課題以上研究担当者ハ一題目担当ノコトトシテ計上ス
二、所属学部又ハ研究所以外ニ於ケル研究ヲ担当スル者ニツイテハ所属学部又ハ研究所ニ計上セリ

注1）「学部又ハ研究所」項に略称が記載されていたが、正式名称に変更した。
注2）判読不明な箇所は□で示した。
出所）『科学研究手当関係書類』（東北大学史料館所蔵）より作成。

る共同研究体制が強化される、あるいは認識される契機となったと考えられる。

表 6 は､1944（昭和 19）年 8 月 28 日現在の「科学研究動員下重要研究課題研究担当者数（実数）調」である。先の「昭和十九年度／科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」と比較すると、理学部が 54 件から 48 件に減少し、医学部が 17 件のまま、工学部が 25 件から 23 件に減少していることがわかる。昭和 19 年度分として申請した重要研究課題のうち理学部で 6 件、工学部で 2 件、採択されなかったものがあったとみなせる。また昭和 18 年度と比較して、合計において 63 件から 177 件と約 3 倍に増大している様子が看取されるのである。

５．おわりに

本稿では、東北大学史料館所蔵の大久保準三文書を手掛かりとして、戦時下の昭和 18 年度より実施された科学技術動員組織である学術研究会議による研究班組織の構築と研究者等に配当された（緊急）科学研究費に関する資料分析を通して、東北帝国大学における科学技術動員組織の形成過程や科学技術動員組織の有り様、そして展開された研究についてみてきた。

1943（昭和 18）年 8 月 20 日の閣議決定以降、9 月中には受入側である大学の準備は開始されていたものの、科学研究動員下の重要研究課題の決定と緊急科学研究費の交付は、交付側である学術研究会議の 11 月 26 日の官制改正を待たなければならなかった。しかし官制改正後には急速に決定・交付が進められ、第 1 次、第 2 次、追加と 3 次にわたり交付されていたことが確認できた。

昭和 19 年度には、重要研究課題と決定された研究が、件数ベースで昭和 18 年度の約 3 倍に増大していた。しかも各研究の要求した研究費の額がより大きなものになっていることも明らかになった。

そして、書類上のことではあるが、いくつかの研究班の小題目では、大学院特別研究生が研究分担者として扱われていた。大学院特別研究生制度に関して研究を進める上でも重要な資料となろう。

この研究班制度の確立により、大学の研究者等が研究費要求を通して、学内の学部横断的な共同研究体制を促進させる、なんらかの素地を醸成する契機となったものと思われる。これらの素地が戦中・戦後の大学の研究の有り様にどのように影響を与えていったのか検討する必要がある。今後の課題としたい。

表5　昭和19年度科学研究動員下に於いて研究せんとする題目調書

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
歯車及工作機械ノ幾何学的研究	第8研究班・各個研究第2番	東北帝国大学教授 窪田忠彦	仙台高等工業学校教授兼東北帝国大学講師佐々木重夫・東北帝国大学助教授前田和彦・東北帝国大学副手青木清	陸軍予科士官学校教授市田朝次良・同勝浦捨造・東京物理学校教授平川淳康	理	数学教室	3ヶ年	3,200	3,200	—	—	—	—	—	1,150	—	—
写真測量照準ノ研究	第8研究班・各個研究第3番	東北帝国大学教授 窪田忠彦	仙台高等工業学校教授兼東北帝国大学講師佐々木重夫	陸軍予科士官学校教授勝浦捨造・仙台陸軍幼年学校教授由井園静男	理	数学教室	3ヶ年	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—
幾何学図形ノ弾性学的研究	新規題目	東北帝国大学教授 窪田忠彦	東北帝国大学助教授前田和彦	—	理	数学教室	3ヶ年	500	500	—	—	—	—	—	—	—	—
応用数学解析	第7研究班	東北帝国大学教授 岡田良知	—	東北帝国大学理学部数学教室北村泰一・東北帝国大学工学部航空科岩名義丈	理	数学教室	3ヶ年	2,600	2,600	—	—	—	—	—	700	—	—
流体力学ノ再検討並ニ高速航空力学ノ研究ト一般二元複素函数論三新分科ノ組織的研究	—	東北帝国大学教授 高須鶴三郎	—	—	理	数学教室	5ヶ年	2,100	1,000	—	—	—	—	—	—	599円　財団法人大日本航空技術協会	1,100円　財団法人大日本航空技術協会（＊印ノ二目）　注：＊は其ノ他人件費608円、其ノ他ノ諸費492円
特殊計測器	—	東北帝国大学教授兼第五陸軍技術研究所嘱託 泉信一	東北帝国大学助手青木和夫	陸軍第五技術研究所	理	数学教室	2ヶ年	10,500	10,500	—	—	—	—	—	—	—	—
応用代数（空中線）	第7研究班	東北帝国大学教授兼多摩研究所嘱託　泉信一	東北帝国大学講師洲之内源一郎・東北帝国大学助手松山昇	多摩陸軍技術研究所	理	数学教室	1ヶ年	1,400	1,400	—	—	—	—	—	—	—	—
水中聴音機	新規題目	東北帝国大学教授兼電気試験所嘱託　泉信一	電気試験所試験員宇多川正友	多摩陸軍技術研究所東北帝国大学分室拔山教授	理	数学教室	1ヶ年	1,860	1,860	—	—	—	—	—	—	—	—
流体内ニ於ケル物体ノ運動	校費題目	東北帝国大学教授 小林厳	第二高等学校教授野邑雄吉	—	理	物理学教室	3ヶ年	1,800	1,800	—	—	—	—	—	—	—	—
γ線分光法ノ研究	科学研究費題目	東北帝国大学教授 山田光雄	東北帝国大学教授林威・東北帝国大学研究補助王□	—	理	物理学教室	2ヶ年	2,000	2,000	—	—	—	7,900	6,400	—	—	—
線ニ沿ウ電磁波ノ研究	新規題目	東北帝国大学教授 山田光雄	東北帝国大学教授林威・東北帝国大学助教授中林陸夫・東北帝国大学講師野邑雄吉	東北帝国大学工学部永井健三教授	理	物理学教室	1ヶ年	1,000	1,000	—	—	—	—	—	—	—	—
原子核ノ実験的研究（原子物理学ノ基礎並ニ実験研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 三枝彦雄	東北帝国大学助教授松本彊・東北帝国大学助手澁谷喜夫・東北帝国大学助手竹本茂雄・東北帝国大学助手河合廣・東北帝国大学助手中澤梅次郎・東北帝国大学研究補助吉田完一	—	理	物理学教室	5ヶ年	20,000	20,000	5,000	12,180	20,000	15,000	12,000	—	2,000円　東京電波株式会社長高間繁	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
素粒子ニ依ル爆発ノ研究	新規題目	東北帝国大学教授 三枝彦雄	東北帝国大学助教授松本疆・東北帝国大学助手竹本茂雄・東北帝国大学助手河合廣・東北帝国大学研究補助吉田完一	—	理	物理学教室	2ヶ年	8,600	5,000	—	—	—	—	—	—	3,600円　陸軍兵品行政本部	同上
分光学的研究	新規題目	東北帝国大学教授 高橋胖	—	赤外線用乾板製造会社　例ヘバ六機社ノ如キヨリ赤外線用乾板入手便宜ヲ得タシ	理	物理学教室	2ヶ年	6,000	6,000	—	—	—	—	—	—	—	—
原子及分子ノ性質ニ関スル実験的研究（原子物理学ノ理論的、実験的研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 高橋胖	—	—	理	物理学教室	3ヶ年	3,000	3,000	—	—	3,800	480	4,500	—	—	—
合金（規則格子）ノX線吸収スペクトル	新規題目	東北帝国大学教授 林　威	助手一名　未定	—	理	物理学教室	2ヶ年	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—
中間子ニ関スル理論的研究	新規題目	東北帝国大学助教授 中林陸夫	陸軍予科士官学校教授 尾崎正治	—	理	物理学教室	3ヶ年	2,500	2,500	—	—	—	—	—	—	—	—
稀元素応用分析法	校費題目	東北帝国大学教授 小林松助	東北帝国大学助手佐藤新作	—	理	化学教室	3ヶ年	2,000	2,000	共同研究費中ヨリ毎年度約500						—	—
Grain of Paradiseノ辛味成分ノ研究並ニ辛味物質ノ合成（Grain of Paradiseノ辛味成分ノ研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 野村博	東北帝国大学助手瀧澤三郎・東北帝国大学研究補助山名三重・東北帝国大学研究補助畑茂誠一	—	理	化学教室	未定	4,500	4,500	—	875	2,000	3,000	3,000	—	—	—
珪素化合物ノX線的、磁気化学的研究（珪素化合物ノX線的、磁気化学的及一般化学的研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 富永齊	東北帝国大学助教授羽里源次郎・東北帝国大学助教授安積宏・仙台高等工業学校教授福本喜繁	—	理	化学教室	3ヶ年	35,000	35,000	19,500	15,100	15,700	16,850	10,000	—	—	—
標準物質ノ作製研究	新規題目	東北帝国大学教授 富永齊	東北帝国大学助教授羽里源次郎・東北帝国大学助教授安積宏	京都帝国大学教授石橋雅義・大阪帝国大学教授渡瀬武男・東京帝国大学教授木村健次郎・中央気象台技師三宅泰雄（相談済）	理	化学教室	5ヶ年	20,000	20,000	—	—	—	—	—	—	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
毒ガス及発煙性物質ノ物理化学的研究並ニ之等ノ除去法ノ研究（収着状態ニ於ケル物質ノ物理的性質ノ研究　樋口泉　上記題目ノ一部分ヲ成ノス）	科学研究費及校費題目	東北帝国大学教授 石川總雄	東北帝国大学助教授樋口泉・東北帝国大学講師有井癸己雄・東北帝国大学副手永澤信・東北帝国大学副手萩澤浩・東北帝国大学研究補助佐川絢子・東北帝国大学研究補助清水三千江	陸軍第八技術研究所國澤新太郎中佐（研究ノ一部分ニ就テハ既ニ協力中）	理	化学教室	3ヶ年	10,000	10,000	—	—	—	—	2,000	樋口泉収着状態ニ於ケル物質ノ物理的性質ノ研究（上記十九年度研究題目中ノ一部ヲ成スモノナリ）	—	—
稀有軽金属ノ物理化学的及電気化学的研究	新規題目	東北帝国大学教授 石川總雄	東北帝国大学講師森一郎・東北帝国大学助手外崎巧一・東北帝国際学研究補助木幡克子・東北帝国大学研究補助石川房子	理化学研究所飯盛里安	理	化学教室	3ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	—	—	—	—	—
金属マグネシウム製造工程ニ於ケル障害ノ原因ノ研究及改良法ノ研究	新規題目	東北帝国大学教授 石川總雄	東北帝国大学助教授樋口泉・東北帝国大学講師丸山謙次・東北帝国大学副手高林亮吉・東北帝国大学研究補助木幡克子・東北帝国大学研究補助石川るり子	朝日軽金属株式会社浦野三朗（交渉ズミ）	理	化学教室	5ヶ年	7,000	7,000	—	—	—	—	—	—	—	—
有機絶縁材料ノ合成（植物成分ノ研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 藤瀬新一郎	東北帝国大学教授富永齊・東北帝国大学講師三井生喜雄・東北帝国大学助手中村要三・東北帝国大学副手立田晴雄・東北帝国大学副手増村光雄	１海軍技術研究所　２工学部電気工学科	理	化学教室	最短年限１ヶ年	10,000	10,000	—	3,500	2,000	3,000	—	—	—	—
石炭ノ地質学的研究（東亜（本邦ヲ含ム）ニ於ケル含炭層群ノ層位学的並ニ古生物学的研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 青木廣二郎	東北帝国大学助教授遠藤誠道・仙台高等工業学校教授兼東北帝国大学授業嘱託江口元起・第二高等学校教授兼東北帝国大学講師西尾敏夫	東北帝国大学理学部岩石砿物砿床学教室教授高橋純一氏・北海道帝国大学理学部地質鉱物学教室助教授佐々保雄氏・九州帝国大学理学部地質鉱物学教室教授今野圓藏氏	理	地質学古生物学教室	2ヶ年	20,000	20,000	—	—	8,000	9,900	10,000	—	—	—
南方油田地質ノ基礎的研究	第54研究班	東北帝国大学教授 半澤正四郎	東北帝国大学助教授淺野清・東北帝国大学助手西山省三	東北帝国大学理学部岩石砿物砿床学教室教授高橋純一氏・帝国石油株式会社地質部大炊御門経輝氏、資源科学研究所、東京、京都、北海道ノ各帝国大学理学部地質鉱物教室、東京文理ノ	理	地質学古生物学教室	2ヶ年	18,000	18,000	—	—	—	—	—	4,000	—	—
緊急開発ヲ要スル内地油田ノ研究	新規題目	東北帝国大学教授 半澤正四郎	東北帝国大学助教授遠藤誠道・東北帝国大学助手西山省三	東北帝国大学理学部岩石砿物砿床学教室教授高橋純一	理	地質学古生物学教室	2ヶ年	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—
石炭ノ岩石学的研究	第52～53研究班	東北帝国大学教授 高橋純一	東北帝国大学助教授（申請中）湯田慶一	—	理	岩石砿物砿床学教室	2ヶ年	10,000	10,000	—	—	—	—	—	—	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
石油砿床ノ研究	第52(石油砿床)・53(南方油田)研究班	東北帝国大学教授 高橋純一	東北帝国大学教授（申請）八木次男・東北帝国大学助教授大森啓一・東北帝国大学助教授（申請中）湯田慶一	軍需省燃料局帝国石油会社ト連絡アリ	理	岩石砿物砿床学教室	2ヶ年	28,000	28,000	—	—	—	—	—	400	—	—
東日本ニ於ケル水鉛砿床及ビ砂鉄砿床ノ分布及ビ開発	第51(鉱床)研究班	東北帝国大学教授 渡邊萬次郎	東北帝国大学助教授竹内常彦	—	理	岩石砿物砿床学教室	2ヶ年	15,000	15,000	—	—	—	—	—	6,000	—	—
滑石磁器及チタン磁器ノ研究（高周波用碍子）	第60研究班	東北帝国大学教授 高根勝利	東北帝国大学助教授八木健三	—	理	岩石砿物砿床学教室	3ヶ年	20,000	20,000	—	—	—	—	—	7,000	—	—
有用海藻ノ生殖ニ関スル研究（植物ニ関スル形態学的研究）	科学研究費題目ノ一	東北帝国大学教授 田原正人	東北帝国大学副手杉原美徳・東北帝国大学副手阿部廣五郎	北海道帝国大学理学部植物学教室山田幸男	理	生物学教室	2ヶ年	4,000	3,000	2,400	1,550	3,000	3,950	3,500	—	1,200 日本学術振興会	1,000 日本学術振興会
飛行機材ニ就テノ組織学的研究（植物ニ関スル形態学的研究）	新規題目	東北帝国大学教授 田原正人	東北帝国大学助手岡部作一・東北帝国大学助手及川公平・東北帝国大学副手杉原美徳・東北帝国大学副手生沼巴	東京帝国大学理学部植物学教室小倉謙	理	生物学教室	2ヶ年	3,000	3,000	2,400	1,550	3,000	3,950	3,500	—	—	—
野生植物ノ繊維ニツイテノ研究（植物ニ関スル形態学的研究）	新規題目	東北帝国大学教授 田原正人	東北帝国大学助手岡部作一・東北帝国大学副手生沼巴	東京帝国大学理学部植物学教室小倉謙	理	生物学教室	2ヶ年	3,000	3,000	2,400	1,550	3,000	3,950	3,500	—	—	—
医学ニ関スル昆虫ノ研究	各個研究第480□番	東北帝国大学教授 朴澤三二	東北帝国大学講師加藤睦奥雄	東京帝国大学農学部動物学教室鏑木外妓雄	理	生物学教室	3ヶ年	10,500	7,500	—	—	—	—	—	2,000	3,000　陸軍	同上
馬鈴薯、甘藷ノ病害貯蔵	各個研究第4028番	東北帝国大学教授 吉井義次	東北帝国大学教授山口彌輔・東北帝国大学教授岡田要之助・東北帝国大学教授元村勲・東北帝国大学助教授神保忠男・東北帝国大学教授小野田直之	東北各郡農事試験場竝農林省農事試験場奥羽試験地・各帝国大学研究機関竝ニ本学農学研究所	理	生物学教室	3ヶ年	15,000	15,000	—	—	—	—	—	10,000	—	—
生物育成ノ刺戟生理（植物ノ刺戟生理ニ関スル研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 山口彌輔	東北帝国大学副手遠藤沖吉・東北帝国大学雇山内精二	—	理	生物学教室	3ヶ年	4,000	4,000	—	1,550	3,900	3,950	3,500	—	—	—
植物ノヴアイラス(Virus)ニ就テ	新規題目	東北帝国大学教授 山口彌輔	東北帝国大学助手沖永哲一・東北帝国大学雇山内精二	北海道帝国大学農学部福士貞吉	理	生物学教室	3ヶ年	6,000	6,000	—	1,550	3,900	3,950	3,500	—	—	—
動物ノ人工授精ノ研究（動物ノ形態ノ発生及ビ分化ノ機構ニ関スル実験的研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 元村勲	東北帝国大学講師岡田克弘・東北帝国大学助手平井越郎・東北帝国大学副手坂本義彦	各大学畜産学科及水産学科	理	生物学教室	2ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	—	3,500	—	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
異常環境ニ対スル生体調節機能	第4001研究班	東北帝国大学教授 元村勲	東北帝国大学講師岡田克弘・東北帝国大学助手平井越郎・東北帝国大学副手坂本義彦	東京帝国大学理学部動物学教室・東京帝国大学教授合田得輔	理	生物学教室	3ヶ年	10,000	10,000	—	—	—	—	—	—	—	—
太陽表面現象ノ理論	—	東北帝国大学教授 松隅健彦	東北帝国大学助教授一柳壽一	—	理	天文学教室	2ヶ年	4,500	4,500	—	—	—	—	—	—	—	—
潜水天測法	第8研究班	東北帝国大学教授 松隅健彦	—	—	理	天文学教室	2ヶ年	15,000	15,000	—	—	—	—	—	500	—	—
力学的地震探知法	第47研究班	東北帝国大学教授 中村左衛門太郎	東北帝国大学助手齋藤良一・東北帝国大学助手伊藤清記	地震研究所高橋龍太郎（班長）　他数名	理	向山観象所	2ヶ年	3,000	3,000	—	—	—	—	—	—	3,300　第三陸軍技術研究所	—
特種磁力計及自記磁力計ノ試作	第48研究班	東北帝国大学教授 中村左衛門太郎	東北帝国大学講師佐藤隆夫・東北帝国大学助手齋藤良一・東北帝国大学助手伊藤清記	—	理	向山観象所	1ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	—	—	5,000	—	—
太陽熱及温泉熱ノ利用	新規題目（全国的研究班ノ一部）	東北帝国大学教授 中村左衛門太郎	東北帝国大学講師佐藤隆夫	地震研究所教授・坪井忠二・名古屋帝大教授宮部直巳　外数名	理	向山観象所	2ヶ年	10,000	10,000	—	—	—	—	—	—	—	—
地物ノ色ニ関スル研究	新規題目（全国的研究班ノ一部）	東北帝国大学教授 中村左衛門太郎	東北帝国大学講師佐藤隆夫	陸地測量部武藤技師　外数名	理	向山観象所	2ヶ年	10,000	10,000	—	—	—	—	—	—	—	—
電気的方法ニヨル地雷探査	第47号研究班	東北帝国大学助教授 加藤愛雄	東北帝国大学助手嶺永治	—	理	向山観象所	3ヶ年	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—
重力計ノ試作	第48号研究班	東北帝国大学助教授 加藤愛雄	東北帝国大学助手嶺永治	—	理	向山観象所	2ヶ年	3,500	3,500	—	—	—	—	—	7,000	—	—
空中電気ノ天気予報ヘノ利用	第113号研究班	東北帝国大学助教授 加藤愛雄	東北帝国大学講師佐藤隆夫	—	理	向山観象所	2ヶ年以内	12,000	12,000	—	—	—	—	—	3,350	—	—
飛行機凍結防止ニ関スル研究	第114号研究班	東北帝国大学助教授 加藤愛雄	東北帝国大学助教授樋口泉・東北帝国大学講師佐藤隆夫・東北帝国大学助手嶺永治・嘱託八木澤喜一	浜松高等工業学校教授分島柘	理	向山観象所・化学教室	2ヶ年	125,000	125,000	—	—	—	—	—	30,000	—	—
大題目　塗料　染料　小題目　船底塗料ノ生物学的研究	第66（三浦伊八郎）研究班	東北帝国大学教授 野村七錄	東北帝国大学助手石田周三・東北帝国大学助教授小泉辰雄	海軍技術研究所造船部（研究連絡交渉中）	理	生物学教室・臨海実験所	3ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	—	—	3,000	—	—
大題目　特殊水産物ノ増殖　小題目　プランクトンノ増殖	第80（岡田要）研究班	東北帝国大学教授 野村七錄	東北帝国大学助教授小久保清治・東北帝国大学講師永野為武	函館高等水産学校教授田村正	理	生物学教室・臨海実験所	3ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	—	—	—	—	—
荒蕪地植栽ノ研究（植物群ノ生態学的研究）	科学研究費題目	東北帝国大学教授 吉井義次	東北帝国大学助教授木村有香・東北帝国大学講師吉岡邦二・東北帝国大学講師森隆也	山形県農事試験場砂丘試験地（西田川郡袖浦）・内務省土木試験所・各帝国大学研究機関並資源科学研究所	理	生物学教室・八甲田山実験所	3ヶ年	5,000	5,000	2,400	1,530	4,000	3,850	3,500	—	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
寒冷ノ糖原生成ニ及ボスびたみんノ影響	第87研究班	東京帝国大学教授 黒川利雄	東北帝国大学助教授山形敞一・〃副手笹生直也・〃〃瓢武二郎・〃〃清野祐彦	—	医	黒川内科教室	2年間	5,000	5,000	—	—	—	—	—	3,000	—	—
脳波ニヨル大脳機能ノ生理学的並ビニ臨床的研究	科学研究費題目	東北帝国大学教授 本川弘一・〃桂重次	大学院学生岩間吉也・助手佐谷正輝・副手手島金次郎・籏福重左エ門・医員介補芳賀元子	東北帝国大学工学部電気科	医	生理学教室・桂外科教室	今後3ヶ年	15,000	15,000	—	—	—	10000	6000	—	—	—
「ヘキソサミン」化合物ノ医化学的研究	科学研究費題目	東北帝国大学教授 正宗一	大学院生宇津志元亨・副手藤幸藏	—	医	医化学教室	8(年？)	9,000	9,000	—	—	—	3000	4500	—	—	—
航空時筋作業ニ因ル疲労ニ関スル研究	第115研究班	東北帝大航空医学研究所長　加藤豊治郎	教授佐藤熙・〃松田幸次郎	本研究班（１１５班）ニ関与スル各大学及研究所ノ各研究者並ニ其所要ノ研究機構	医	航空医学研究所	2ヶ年	4,500	4,500	—	—	—	—	—	2,500	—	—
温泉科学ニ関スル綜合研究	新規？	総長熊谷岱藏・教授海老名敏明・同黒川利雄・同伊藤實・同三木威勇治	助手菅野巌・助手杉山尚・講師松永藤雄・助教授塚田進・講師佐竹逸郎	東北帝国大学理学部名誉教授神津淑祐・同教授富永齊・同教授中村左衛門太郎、同教授渡邊萬次郎、同教授中村七錄、工学部教授抜山四郎	医	内科教室・皮膚科教室・整形外科教室	2年	4,000	4,000	—	—	—	—	3,000	—	服部報公会 1,200（内1,000円ハ理工学部共同研究用）	—
輸血及其他ノ栄養問題	新規題目	東北帝大教授篠田紘・〃黒川利雄・〃武藤完雄・〃桂重次・〃村上次男・〃正宗一		陸軍軍医部	医	産科婦人科内科外科法医学及ヒ医化学教室	2ヶ年	50,000	50,000	—	—	—	—	—	—	—	—
菌体成分（結核菌、チフス菌等）ノ化学的免疫学的研究	科学研究費題目	東北帝大教授 黒屋政彦	助手濱上正・助手古岡志郎・副手菊池恭太郎・副手桜井誠・副手近藤師家治・副手三輪盛文・大学院学生大津英弘	—	医	細菌学教室	？	26,900	26,900	—	4,300	3,750	5,000	—	—	—	—
母性保健ニ関スル研究　特ニ妊娠中毒症ノ成因ト予防法ニ関スル研究	科学研究費題目	東北帝国大学教授 篠田紘	東北帝国大学助教授九島勝司	—	医	産科婦人科学教室	2ヶ年	5,800	5,800	1,100	800	3,100	2,500	2,500	—	—	—
マラリアノ免疫学的予防及治療ニ関スル研究	新規題目	東北帝国大学教授 黒屋政彦・同丸井清泰	講師□□目五郎・副手岡部兵エ・副手三輪盛文・副手小泉全孝	—	医	細菌学教室・精神医学教室	3年	13,500	13,500	—	—	—	—	—	—	—	—
疲労回復	新規題目	東北帝大教授佐藤安太郎・〃佐藤彰・〃丸井清泰・〃本川弘一・〃助教授和田正男・〃〃丸田公雄	—	—	医	生理学・小児科学・精神病学・外科学教室	2年	20,000	20,000	—	—	—	—	—	—	—	—
免疫性動脈内被細胞毒素ノ研究	各個研究第98番	東北帝国大学教授 村上次男	講師酒井清澄・副手中村肇	—	医？	法医学教室	3年	4,000	4,000	—	—	—	—	—	4,000	—	—
放射線　間接撮影ニ関スル研究	第92研究班	東北帝国大学教授 古賀良彦	助教授（入営中）宮地韶太郎・講師高橋信次・助手松川明	全科技聯八〇〇八研究隣組射和三郎・小原誠・中村德夫	医	放射線医学教室	2年	6,000	5,000	—	—	—	3,000	3,000	9,800	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
体力増強ニ関スル基礎的研究	第88研究班	東北帝大教授 近藤正二	助教授浅井壽春（応召中）・助手加藤勝雄・講師安倍弘毅・〃高橋英次	—	医	衛生学教室	3年	5,000	5,000	1,300	1,040	4,300	2,000	2,000	—	—	—
瓦斯壊疽ニ関スル研究	校費題目	東北帝大教授 黒屋政彦	副手小泉全孝・助手濱上正・副手菊池恭太郎・副手岡部兵エ	—	医	細菌学教室	3年	12,300	12,300	—	—	—	—	—	—	—	—
悪性腫瘍ニ関スル研究	科学研究費題目	東北帝大教授那須省三郎・〃正宗一・〃黒川利雄・〃武藤完雄	—	—	医	病理学教室・医化学教室・内科学教室・外科学教室	4年間	20,000	20,000	—	—	—	—	5,000	—	—	—
寒地医学ニ関スル綜合的研究	新規題目	東北帝国大学教授黒川利雄・〃黒屋政彦・〃正宗一・〃那須省三郎・〃伊藤實・〃武藤完雄・〃古賀良彦・〃林雄造	—	—	医	内科細菌医化学病理皮膚科外科放射線科眼科教室	—	156,200	156,200	—	—	—	—	—	—	—	—
本邦母乳ノ研究	第40研究班	東北帝国大学教授 佐藤彰	吉池太郎・酒井静二郎・吉田毅・森川俊雄・内藤武・海法靖男	藤瀬新一郎（東北帝大理学部教授）	医	小児科教室	3ヶ年	4,850	4,850	—	—	2,200	3,000	3,000	—	—	—
東北産有用鉱物並ニ其ノ浮選剤ニ関スル研究	新規題目	教授 西澤恭助	教授和田正美・助教授竹内常彦	仙台高等工業学教授髙野政吉	工	金属工学科	3ヶ年	30,000	30,000	—	—	2,000	1,500	1,300	—	—	—
高々度機用補機ノ研究	新規題目	教授宮城音五郎・教授成瀬政男・教授棚澤泰・助教授木内修一・講師岩名義文・講師宮坂五一郎・講師中鉢龍雄・講師山田金雄		—	工	航空学科	2ヶ年	50,000	50,000	—	—	12,100	8,900	8,100	—	—	—
液々接触操作及装置ノ研究	校費題目	教授 八田四郎次	講師赤羽政亮	—	工	化学工学科	3ヶ年（情況ニヨツテ尚継続ノ希望アリ）	3,000	3,000	—	—	—	—	—	—	—	—
航空機材料ノ振動強度ニ関スル研究	新規題目	教授 樋口盛一	講師飯沼一精・助手（十九年四月助教授ニ推薦予定）鈴木正彦・大学院特別研究生斎藤秀雄	海軍航空技術廠材料部第一科主任　海軍技術少佐　佐藤忠雄（但シ本研究担当者ハ海軍航空技術廠嘱託トシテ委託研究ニ従事シ現ニ記載ノ協力ヲ得テキル）	工	機械工学科	3ヶ年	27,500	20,000	950	1,600	4,800	4,870	4,600	—	海軍航空技術廠其他約7,000円	海軍航空技術廠其他約7,000円
仙台放電管ノ生産技術ヘノ応用	新規題目	東北帝国大学工学部教授兼電気試験所技師兼海軍技師渡邊寧	—	電気試験所技師杉原榮次郎・日本無線株式会社技師海軍省嘱託深川修吉・横河電球製作所笠原秀雄	工	電気工学科	2ヶ年	20,000	18,000	1,900	1,900	1,500	1,000	1,000	—	—	—
航空通信器用高周波磁心	新規題目	教授 松平正寿	教授松平正寿・教授永井健三・教授仁科存・教授福島弘毅・助教授角川正・助教授和田正信・嘱託守屋稔	—	工	電気工学科	2ヶ年	30,000	30,000	—	—	—	—	—	—	—	—

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
ニッケル、コバルトノ製錬	新規題目	教授 伊澤正宣	—	仙台高等工業学校教授清水卓三（協力者ト連絡スミ）	工	金属工学科	3ヶ年	50,000	50,000	—	2,800	2,800	1,800	1,500	—	—	—
「耐熱耐寒電池」	第30研究班	教授 伏屋義一郎	助手安積利一・大学院特別研究生高木修・実験補助菅田吉雄	第30研究班員　東京帝大教授亀山直人・京都帝大教授岡田辰三・名古屋帝大教授佐々木熊三	工	化学工学科	2ヶ年	7,000	5,000	—	—	—	—	—	5,000	5,000円　陸軍技術本部	—
特殊鋼ノ熔製ニ関スル研究	新規題目	教授 的場幸雄	教授的場幸雄	仙台高等工業学校教授那須萬之助・北海道帝大理学部教授柴田善一・名古屋帝大理工学部教授佐野幸吉〕連絡済	工	金属工学科	3年	50,000	50,000	2,350	2,350	1,750	1,400	1,300	—	日本学振19小委員会2,000、海軍航空技術廠3,000	—
疲労強度ノ迅速決定法ノ研究	新規題目	教授 松山德藏	助手畠村元統	—	工	機械工学科	3ヶ年	15,000	15,000	—	—	—	—	—	—	—	—
稀元素特殊鋼ノ研究	新規題目	教授 濱住松二郎	助教授斎藤恒三・助教授大平五郎	仙台高等工業学校教授（冶金）村上照造・盛岡高等工業学校講師（冶金）三上悌次	工	金属工学科	3ヶ年	92,000	92,000	2,800	2,800	2,150	2,000	2,000	—	—	—
内燃機関ノ過給法	新規題目	教授前川道治郎・助教授坪内為雄・助手鈴木忠夫	—	中島飛行機会社　東京製作所技師蓮尾諭吉・池貝製作所発動機部　技師浅見与一	工	内燃機関学講座	1ヶ年	5,200	5,200	2,800	2,800	2,100	1,800	1,500	—	2000円　陸軍技術研究所	—
軽金属材料中ノアルミニウム製錬ニ関スル研究　溶融塩電解ニ関スル研究	第57研究班	教授 伏屋義一郎	助手安積利一・実験補助岡田清八	第57研究班ノ内アルミニウム製錬関係者　東京帝大教授亀山直人・京都帝大教授岡田辰三・九州帝大教授奥野俊郎・大阪帝大教授石野俊夫等	工	化学工学科	一部ハ昭和19年度中ニ終了、他ハ尚約5年間継続ノ見込	8,000	8,000	1,300	1,400	1,300	800	800	8,000	—	—
航空原動機ノ燃料経済ニ関スル基礎的研究	新規題目	教授前川道治郎・助教授坪内為雄・助手鈴木忠夫	—	陸軍航空技術研究所嘱託粟野東京帝大助教授	工	内燃機関学講座	3ヶ年	7,000	7,000	2,800	2,800	2,100	1,800	1,500	800	—	—
磁歪材料ノ研究	各個研究第2040番	教授 抜山平一	教授松平正寿・教授永井健三・教授仁科存・教授実吉純一・教授福島弘毅・助教授角川正・助教授和田正信・助手松前茂生・助手武田尚正	—	工	電気工学科	3ヶ年	200,000	200,000	—	—	—	—	—	40,000	—	—
航空発動機ノ運航中用計測器	新規題目	教授前川道治郎・助教授坪内為雄・助手鈴木忠夫	—	東北帝大金属材料研究所・東北帝大通信研究所	工	内燃機関学講座	3ヶ年	4,200	4,200	2,800	2,800	2,100	1,800	1,500	—	—	—
鋼ノ迅速窒化法ノ研究	新規題目	教授佐藤知雄・教授原龍三郎・金属材料研究所岩瀬慶三・教授成瀬政男・助教授木内修一	実験補助角川豊久・同山口優・副手熊尾信一・助手青木猪三雄・助手利根川準一	—	工	金属工学科	2ヶ年	40,000	40,000	—	—	—	—	—	—	—	—
冷却法ノ応用的研究	新規題目	教授 抜山四郎	専攻生梅原半二・〃青山富三男・大学院特別研究生西村靖正・専攻生菊地裕一・〃辻末治・助手島津勝次郎	—	工	機械工学科	2ヶ年	34,000	15,000	5,600	5,600	4,400	3,650	3,300	—	7,500　航空技協会、4,000陸軍	5,000

研究題目	継続・新規	研究組織		研究協力ヲ望ム研究機関名及協力者名	主タル実施箇所		研究予定年数	研究費用〔円〕		従来受ケタル文部省科学研究費〔円〕						他ヨリノ援助補助	
		研究担当者　官職氏名	研究分担者　官職氏名		学部	教室（等）		昭和19年度所要経費総額	昭和19年度所要経費中科学研究費要求額	昭和14年度	昭和15年度	昭和16年度	昭和17年度	昭和18年度	昭和18年度緊急科学研究費	18年度ニ受ケタル金額及出所	19年度ニ受ケルコトノ決定シタルモノ又ハ申請中ノモノノ金額及出所
電波兵器用極超短波受信管ノ研究	新規題目	教授 宇田新太郎	助手中村新太郎・同關本秀男・同庄司專吉	—	工・通研	通信工学科	2ヶ年	8,000	7,000	500	500	300	700	1,700	—	—	—
温泉ノ熱工学的研究	科学研究費題目	教授 抜山四郎	専攻生梅原半二	—	工	機械工学科	2ヶ年	3,500	3,000	—	—	—	—	1,000	—	—	—
航空機用軽合金	新規題目（但シ大日方教授昭和18年度緊急科学研究費第2046番「チュラルミン」ノ性能向上、ヲ含ム）	教授 小野健二	教授大日方一司	九州帝国大学兼東京帝国大学（第二工学部）教授今井弘・北海道帝国大学助教授幸田成康各大学協力者トハ連絡済ミ	工・金研	冶金又ハ金属工学教室	3年	200,000	200,000	—	—	1,700	1,300	1,200	各個研究第2046番3,000	—	—
代用高速度鋼ノ研究	新規題目	教授佐藤知雄・助教授矢島悦次郎	助手中谷洋太・実験補助角田チヨ・実験補助扇谷肇・同七戸都子	東京工業大学精密機械研究所教授横山均次・秋田鉱山専門学校教授三神正苗・仙台高等工業学校講師飯島精一	工	金属工学科	2ヶ年	35,000	35,000	—	—	—	—	—	—	—	—
化学反応ニ帰因スル液体ニヨル瓦斯吸収液「ガス」接触ノ装置及操作ノ研究	新規題目	教授 八田四郎次	—	仙台高等工業学校教授九鬼利憲	工	化学工学科	3箇年（研究結果ノ状況ニヨツテ更ニ継続スルカモ知レヌ）	2,000	2,000	1,300	1,300	1,300	1,000	600	—	—	—
鋳物砂ノ研究	第101研究班	東北帝国大学教授 小出登雄吉	東北帝国大学助教授齋藤恒三	—	工	金属工学科	2年	7,000	7,000	—	—	—	—	—	4,000	1,000　服部報公会	—
兵器ノ精密工作	科学研究費題目	教授　松山德藏	助手畠村元統	—	工	機械工学科	2ヶ年	5,000	5,000	—	—	—	2,500	2,500	—	—	—

注1）研究題目中、朱書で下線が付されているものに下線を付してある。
注2）記載事項中の「研究目標及戦争遂行トノ関聯関係」と「研究協力ニ関スル機関長意見」はほとんど記載がないので省略した。
注3）記載事項中の「研究事項ノ主タル学術部門別（理、工、医、農、理工等）」は、「主タル実施箇所」とほぼ同内容だったので省略した。
注4）記載事項中の「研究内容」の記載は省略した。
注5）記載事項中の「提出題目ノ順位」にはほとんど記載がないので省略した。
注6）判読不明な箇所は□で示した。
出所）「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」（大久保準三文書、東北大学史料館所蔵）より作成。

註

（１）東北帝国大学『評議会議事要録』昭和 18 年度（東北大学史料館所蔵）。
（２）日本科学史学会『日本科学技術史大系』第 4 巻、通史 4、1966、pp.315-322。
（３）同上書、pp.407-410。
（４）戦時下の科学技術動員についての近年の研究として次のようなものがあげられる。
軍の科学技術動員については沢井実「太平洋戦争期における陸軍の研究開発体制構想－陸軍兵器行政本部技術部の活動を中心に」『大阪大学経済学』58 巻 4 号、2009、pp.1-19。河村豊「旧日本海軍における科学技術動員の特徴」『科学史研究』39、2000、pp.88-98。
技術院の動員については、青木洋・平本厚「科学技術動員と研究隣組－第二次大戦下日本の共同研究」『社会経済史学』68 巻 5 号、2003、pp.3-24。青木洋「第二次大戦中の研究隣組活動－研究隣組趣旨及組員名簿による実証分析－」『科学技術史』第 7 号、2004、pp.1-39。「研究隣組組員名簿」同前誌、同号、pp.107-135。
文部省の動員については青木洋「第二次大戦中の科学動員と学術研究会議の研究班」『社会経済史学』、2006、pp.63-85。「学術研究会議の共同研究活動と科学動員の終局」『科学技術史』第 10 号、2007、pp.1-40。などがある。
（５）大久保準三（1886-1964）は、1914（大正 3）年に東北帝国大学理科大学物理学科を卒業後、東北帝国大学講師・助教授を経て、1923（大正 12）年から本多光太郎の後任として理学部物理学科教授となった研究者である。大久保は計測方法の開発研究の重要性を説き、東北帝国大学科学計測研究所の創設に尽力し、1943（昭和 18）年の研究所附置に際し初代所長に就任し 1948（昭和 23）年まで在職した。大久保準三文書は、旧科学計測研究所から移管された資料のなかに含まれていた資料群で、もともと大久保の手許文書であったものが大久保の退任後研究所に残され保管されてきたものと考えられる。「大久保準三文書（科学計測研究所関係）」解説（http://www2.archives.tohoku.ac.jp/data/kojin-kikan/prof/okubo/okubo.htm）より。
（６）青木洋「学術研究会議の共同研究活動と科学動員の終局－戦中から戦後へ－」『科学技術史』第 10 号、2007、p.3。
（７）『総長会議其他　其一　自昭和一八年四月至昭和一八年九月』（内田祥三資料 3-1、東京大学史史料室所蔵）。
（８）「大学総長会議ニ於ケル参考資料」東北帝国大学『評議会議事要録』昭和 18 年、9 月 2 日の議事録に添付されている。また同上『総長会議其他　其一　自昭和一八年四月至昭和一八年九月』にも所収されている。
（９）北海道帝国大学『自昭和十八年／至昭和二十三年／評議会記録』北海道大学所蔵。
（10）京都帝国大学『評議会議事録　昭和十八年』、『評議会関係書類』京都大学大学文書館所蔵。
（11）九州帝国大学『昭和 18 ～ 19 ／評議会記録／ No.7　庶』九州大学所蔵。
（12）同上。
（13）名古屋帝国大学『自昭和十八年一月／至昭和十九年十月／評議会記録』名古屋大学大学文書資料室所蔵。
（14）東京帝国大学『昭和十八年／評議会記録』東京大学所蔵。
（15）東北帝国大学『評議会議事要録』昭和 18 年、東北大学史料館所蔵。
（16）同上。
（17）同上。
（18）このことは「東北帝国大学科学研究協議会規程」第一條にも記されている。『東北帝国大学一覧』昭和十八年度、p.60。
（19）前掲東北帝国大学『評議会議事要録』昭和 18 年。
（20）「学術研究会議官制改正」昭和 18 年 11 月 26 日公布・施行（勅令第 886 号）。
（21）前掲青木論文、p.74。
（22）日本学術会議『日本学術会議二十五年史』、1974、p.257。青木、p.74。
（23）前掲青木論文、p.75。
（24）同上。
（25）昭和 18 年 12 月 7 日付『朝日新聞』東京版、2 面。
（26）『科学研究手当関係書類』東北大学史料館所蔵。

(27) 名古屋帝国大学『自昭和十八年一月／至昭和十九年十月／評議会記録』名古屋大学大学文書資料室所蔵。
(28) 京都帝国大学『評議会関係書類』昭和十九年。
(29) これらの大学院特別研究生の研究題目などについては以下の拙著を参照されたい。「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学」『東北大学史料館紀要』第 2 号， pp. 25-45。「東北帝国大学特別研究生候補者の研究事項解説書－　昭和 18 年～昭和 20 年度－」『東北大学史料館紀要』第 3 号， pp. 31-81。「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学―聞き取り調査を中心に―」『東北大学史料館紀要』第 4 号，2009, pp. 75-105。
(30) 同上。
(31) 拙著「戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学－元特別研究生への聞き取り調査を中心に－」pp. 96-97。
(32) 同前論文、p. 105。

〔付記〕大久保準三文書の「昭和十九年度科学研究動員下ニ於テ研究セントスル題目調書」をデータベース化する際に、東北大学大学院文学研究科の小幡圭祐氏に協力いただいた。この場を借りて謝意を表しておきたい。本研究は、平成 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤Ｃ）「戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程とその実態に関する研究」（課題番号 : 22530809，研究代表者 : 吉葉恭行）による研究成果の一部である。